

小P連だより

第46号

平成23年9月10日
発行
八王子市立小学校
PTA連合会

東日本大震災レポート —これから私たちがすべきこと—

加藤防災課長に東日本大震災発生当日の様子とその対応、今後の取り組みなどについてお話を伺いました。



八王子市役所 防災課長
生活安全部

かとう まさみ
加藤 雅己 さん

東日本大震災被災当日の様子

避難場所は、延焼などの危険の無い「広域避難場所」、様子を見るため一時的に避難する「一時避難場所」、臨時に生活を営む「避難所」と、大きく3つに分類できます。小中学校は災害発生時の一時避難場所であると同時に、体育館は避難所ともなりません。

今年三月十一日に発生した東日本大震災においては、被災当日は幸い

にも電気・ガス・水道などのライフラインは致命的な支障をきたすことなく、同市内において避難所生活を強いられるような甚大な被害を受けた世帯もありませんでしたが、交通機関の停止による帰宅困難者が現れたり、市民の方々から多くの問い合わせが寄せられたりと、多種多様な対応に追われることとなりました。

東日本大震災概要 ※生活安全部資料より

発生：H23年3月11日 PM 2時46分頃
規模：マグニチュード 9.0
震度：最大震度 7 (宮城県栗原市)
八王子市の震度：5弱

【八王子市の被害状況】 (5月11日現在)

人的被害：なし
住家被害：一部損壊 29棟
(屋根瓦落下・外壁ひび等)
その他被害：28件
(ブロック塀・灯籠倒壊等)
火災：1件 (ポヤ火災)

まずは、多くの帰宅困難者が駅周辺に滞留する事態への対応です。携帯電話が繋がらない、メールの送受信ができないといった、通信手段への影響が大きな引き金となりました。その殆どは、通勤・通学で八王子に訪れた方々でしたが、歩いて帰宅できる距離の方でも、帰宅途中に事故に遭う危険を避け、各避難所に行かれたケースもありましたし、高尾山等へ遠足に来ていて帰宅できなくなり、先生、生徒とも避難所に泊まったケースもありました。

八王子駅周辺滞留者対策訓練

不幸中の幸いと言えるのは、昨年、平成二十二年十一月、八王子駅周辺滞留者対策推進協議会主催による滞留者対策訓練を実施していたことです。防災課の呼び掛けで集まった、電車・バス・タクシーなどの各種交通機関や、消防署・警察署の他、東京電力・NTT・ホテル・病院・デパート・商店会など、様々な団体で構成される同協議会は、都内の多摩地区において唯一、同訓練を実施し、有事に備えていました。

そのおかげで私たちも慌てることなく、後日、各方面からお褒めの言葉いただいたほど冷静に、二〇〇〇

名以上の滞留者の方々を十三箇所の避難所まで無事に誘導し、適切に対応することが出来ました。

計画停電への対応と改善への取り組み

その後、三月十四日に危機管理本部を設置。計画停電に対応するため職員二十四名体制で停電相談センターを開設しました。

計画停電の情報も併せて配信し、電話での登録受付も開始した防災情報メール(三月十一日時点で九六七五件)は、わずか四日間で四六五〇件の新規登録があり、三月三〇日には三四七八〇件となりました。

夕焼け小焼けの放送でお馴染みの防災無線では、計画停電のスケジュールをお知らせしましたが、放送がよく聞こえなかった、聞き取りづらかったというご意見を受け、六月には早々に補正予算が組まれました。防災無線のデジタル化と併せ、年内に二十五本、来年三十五本、計六十本のスピーカーが新設されます。

また、災害時の優先電話である公衆電話の回線を、駅や避難所となり得る施設、計五十箇所に、あらかじめ敷設することも決まりました。

(次ページへ続く)

今回の震災で感じたこと

私たち防災課も含め、消防、警察、自衛隊など、どんな災害対策のプロであつても、地震で揺れている最中に出動することはできません。つまり、まずは「各自が自らの命を救う」ことが最優先です。そのためには、日頃からできる範囲で有事に備えておくしかありません。例えば、お子さんの通学路における危険箇所を確認したり、万一の際の避難場所をご家族で示し合わせておくなど、未然にできることはたくさんあります。

子供たちだけでなく、我々大人も、日頃から災害に備えて周囲を観察したり、訓練したりすることで、局面ごと、最悪の選択を避けることができるのだと思います。

学校で起きた全てのことに対する最終判断は校長先生が行いますが、被災当日の児童の下校方法は対応に少々バラつきがありました。物事の感じ方、受け止め方は様々ですから、ある意味、当然の帰結といえます。ただ、その反省から、教育委員会と校長会で検討会を開いたとも聞いております。今後は、部署や課を超えた情報共有が最も重要だと感じています。(取材日・七月二十七日)

子供たちだけでなく、我々大人も、日頃から災害に備えて周囲を観察したり、訓練したりすることで、局面ごと、最悪の選択を避けることができるのだと思います。

子供たちだけでなく、我々大人も、日頃から災害に備えて周囲を観察したり、訓練したりすることで、局面ごと、最悪の選択を避けることができるのだと思います。

学校校舎・体育館の耐震化

矢光施設整備課長に東日本大震災の影響、市内小学校舎及び体育館耐震化の進捗についてお聞きしました。



八王子市役所 学校教育部 次長兼施設整備課長
やこう かつひこ
矢光 克彦 さん

震災の影響による

市内小中学校の被害は？

未曾有の被害をもたらした東日本大震災ですが、八王子市内小中学校においても、窓ガラスの破損や壁・柱のひび割れ等、少なからず被害報告がありました。(下段表 I 参照)

とはいえ、天井材そのものが落下したり、ガラスが割れて落下、蛍光灯の器具が落下するといった、人身事故につながったようなものは無く、まずは一安心といったところです。

今回の地震では、建物が大きく揺れたものの、窓やドアの建て付けに関する不具合は報告されていませんので、建物自体の安全性に問題は無いと考えていますが、おそらく、全ての被害が報告されたというわけではありません。今後、市建築課の協力の下、全校の調査・点検を計画しております。

また、危険箇所については、応急的な修繕は全て完了していますが、亀裂表面の仕上げや、根本的な改修が必要な箇所については、危険の程度を判断し、順次対応して参ります。

市内小中学校校舎・体育館
耐震化の進捗状況は？

震災以前から、小中学校耐震化の早期完了を目指し、鋭意取り組んで参りました。平成二十二年二月には補正予算を編成し、小中学校については、校舎は平成二十四年度、体育館は平成二十七年度中の完了を予定しています。

八王子市は東京都内の他市と比較

しても、ダントツに学校数が多く、毎年、予算の調整に苦労して参りましたが、とりあえず耐震化に一定の目処がついたことで、保護者の皆様にもご安心いただけることかと存じます。

また今後は、普通教室へのエアコン設置、トイレの改修、更には全面改築なども視野に入れ、取り組むべきことは山積しています。この場をお借りし、より一層の貴会員のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

(取材日・七月二十五日)

被害箇所	小学校 (37校)		中学校 (21校)	
	件数	発生率	件数	発生率
① 天井ボード破損	7 件	10.1%	5 件	10.5%
② ガラス破損	13 件	15.9%	5 件	10.5%
③ 蛍光灯破損 (落下等)	7 件	5.8%	5 件	13.2%
	4 件			
④ 給排水管等破損	11 件	10.1%	7 件	15.8%
	7 件		6 件	
⑤ エキスパンションジョイント 損傷	8 件	10.1%	6 件	15.8%
	7 件		6 件	
⑥ 壁、柱等のひび割れ亀裂・損傷	30 件	30.4%	18 件	26.3%
	21 件		10 件	
⑦ その他	14 件	18.8%	18 件	21.1%
	13 件		8 件	

表 I

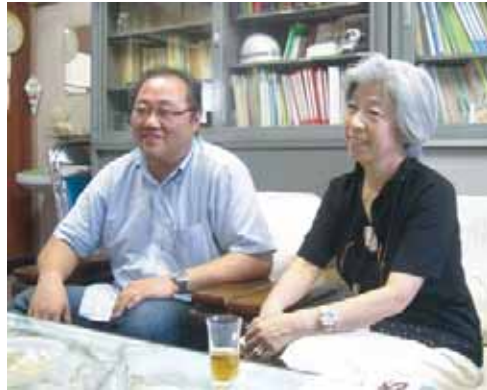
発生率 = 校数 ÷ 学校数
小学校六十九・中学校三十八

東日本大震災発生当日 帰宅困難者受入れレポート

被災当日は、八王子でも鉄道の運行見合わせにより、多数の帰宅困難者を受入れる事態となりました。

今回、帰宅困難者を受入れた六小の伊藤校長先生に当日の様子をお聞きしました。

八王子市立
第六小学校 伊藤 由美子 校長



前PTA会長 植田さん↑

当日の様子を聞かせて下さい。

まず、市役所から本校に帰宅困難者受入れの要請がありました。午後七時頃には、ずらっと大行列が出来て、体育館はあっという間に満員になりました。

日中、卒業式の練習のために並んでいた椅子も、床の上も、一切余地がありません。市職員、救急隊員二名、保健師の方々が対応に追われていましたが、午後十時過ぎに京王線が運行を再開すると、約四〇〇名の避難者が三分の二位になりました。

私たち教職員は、トイレや近隣のコンビニの場所をお教えしたり、電車やバスの運行状況をお知らせするなど、専ら市職員の方々のお手伝いをさせていただきましたが、帰宅方法やご家族の安否確認方法について相談を受けるケースもありました。

何か問題は見つかりましたか？

今回は単に場所を提供しただけで済みましたが、もし、電気・ガス・水道などのライフラインが途絶えていたとしたら、おそらく、もっと大変なことになっていたと思います。

私が特に重要だと感じたのは、水の確保です。通常、本校は電気ポンプを使って屋上にあるタンクへ水を汲み上げていますが、震災後の計画停電でポンプが停止し、タンク内の水を使い切った後、断水してしまっただけではありません。緊急時には飲料としてだけでなく、トイレを流したり、医療用にも必要となります。

【帰宅困難者対応】

●避難所開設数13箇所 (自主避難者受入れ施設を含む)	
●最大収容人数 2,215人	
11日 22:52	1,858人
12日 04:00	1,805人
09:00	39人
11:40	0人

表Ⅱ

本校の防災倉庫の備蓄はカンパン、α化米、毛布などです。プールの水を使うこともできませんが、飲料水の備蓄が無いので、万一の時のために一定量を確保しておくよう、市に要請しました。また、児童在校中の被災も想定し、児童用に一人あたり五〇〇ml程度の飲料水を自主的に用意しておくことを、PTA本部と相談して決めました。

今後に向けて

本校は防災倉庫が三階にあるため、毛布を運び出すのに苦労していると、皆さん同様、帰宅困難者として避難してこられた高校の柔道部の生徒さん方が、自らお手伝いを申し出て下さいました。

他にも、隣りに座ってらっしゃる前PTA会長の植田さんはじめ、PTAの方からおにぎりの差し入れをいただいたり、様子を見守っていたり、全員が大変な時に、人

表Ⅲ 【3月11日の経過と対応】

※表Ⅱ・Ⅲとも生活安全部報告資料より抜粋

14:55	災害警戒本部設置
15:00	防災行政無線により市内全域に注意喚起
15:20	第1回災害警戒本部会議 職員800人を配備
15:54	八王子駅周辺滞留者2,000人との情報に基づき、避難所開設準備。
17:00	三小・六小・子安市民センター・四小・クリエイトホール・南多摩高校・浅川市民センター・東浅川福祉センターに順次避難所開設。
18:00	医師9名・保健師9名が避難所巡回開始。
22:12	京王線全線運行再開
23:00	第2回災害警戒本部会議 避難状況・職員配備体制確認

の温かさに触れることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今回の震災では、教職員・市教委などの教育関係者だけでなく、市役所や地域の皆さんと共に、非常時の対応について協議し、連携を深めていく必要性を感じました。

(取材日・七月二十七日)



八王子市教育委員会
いしかわ かずあき
教育長 石川 和昭

本市教育の向上を目指して

今日、社会生活全般で人々の価値観が大きく変わろうとしています。

この度の東日本大震災では、多くの尊い命が失われ、家屋等への被害も多く、今なお人々の心に深い傷を残しています。こうした中、改めて、子どもたちに対して「生きる力」を育む重要性を痛感しています。

教育委員会として、今回の震災はもとより、学校や地域の特色を生かした取り組みを通して、命の大切さや他人を思いやる「心を育む」教育を進めているところです。

小学校PTA連合会には、「ピポくんの家」の活動や、昨年スタートした「読書のまち八王子」推進コンクールなど、本市教育行政に多大なるご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今後とも貴連合会の益々のご活躍を期待しております。



八王子市立小学校
PTA連合会
しまだ たかひろ
会長 嶋田 天陽

一年間を振り返り

本年度、小P連会長となりました東浅川小P.T.A.の嶋田と申します。

小学生の息子が三人おり、会社員であり、普通の親父であって、決して高い理想を掲げる教育パパではありません。そんな私が子どもにも出来ることは、「自分の生き様を見せる」ことだけ。口先で「失敗を恐れるな、面倒なことでも取り組め」と言っても、行動が伴わない親の背中を見たところで何も響かないでしょう。

もしかしたら、私は会長を引き受けて大失敗をするかもしれません。しかし、失敗や面倒を恐れて傍観するよりは、新しい世界へ挑戦することの大切さを、身をもって彼らに示したい。私の思いはそれだけです。

器の小さい私は、この組織を背負う重圧に、身震いする思いですが、皆様のお知恵を拝借しながら、一歩ずつ着実に活動して参ります。会員の皆様のお力添えを賜りますよう、くれぐれもお願ひ申し上げます。



八王子市
公立小学校長会
のだ ふじお
会長 野田不二夫

小P連との連携

昨年度に続き、小学校長会の会長を務めさせていただきます。

小P連会長様を始めとする会員の皆様には、日頃より大変お世話になっております。貴会におかれましては、伊藤前会長から嶋田新会長へとスムーズにバトンリレーが行われ、今年度の活動がスタートしましたこと、まず以ってお祝い申し上げます。

昨年に引き続き、まずは「小P連と小学校長会との連携」が肝要と捉えております。八王子の教育をより良いものにするためには、小P連と校長会との連携は欠かせません。先の東日本大震災からの大きな教訓として、今年度は更に、地域との連携も大切な課題と受け止めています。

小P連活動の目的である「各単位PTAの健全な発展を図り、相互の協力により八王子市の教育の振興に寄与すること」を目指し、校長会と連携して参りましょう。ご支援、ご協力、よろしくお願ひいたします。

編集後記

その程度、及び直接、間接を問わず、まずは三月十一日の東日本大震災において被災された全ての方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

今回の小P連だよりは、私たちが震災を受けて初めて気付いたことや、学んだことを共有し、今後の防災に生かしていただくことを念頭に編集いたしました。

取材にご協力いただいた方々のお話は、どれも普段は耳にすることのできない貴重な話ばかりでしたが、「防災への取り組みは、日頃から少しずつ行っておけば、万一の時にも、そのリスクが軽減される。」ということが共通のテーマとして流れています。

各家庭におかれましても、これを機会と捉え、防災についてご家族で話し合われてみてはいかがでしょうか。

(編集担当・櫻井)

小P連だより第46号担当

第一ブロック

一小・三小・四小・六小
八小・十小・宇津木台小
大和田小・高倉小・小宮小